

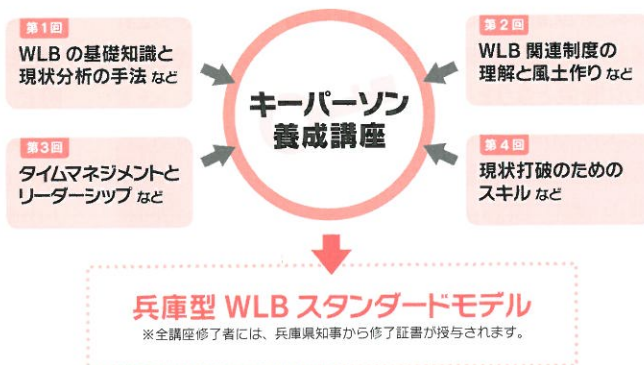
## ワーク・ライフ・バランス実現推進は内部から

「キーパーソン、その存在が会社を救う!」というテーマの下、7月12日に始まった連続講座「キーパーソン養成講座」が11月8日の最終回をもって終了しました。本誌秋号(前号)で初回と第2回の内容をご紹介しましたので、今号では第3回から最終回までの内容と11月21日に当センター3周年記念フェスタの際に行われた修了証書授与式の様子についてご紹介します。

### キーパーソン養成講座とは

ワーク・ライフ・バランス(WLB)の実現推進を経営戦略の一環として進めていくには、組織内キーパーソンの養成が必要です。WLBの実現推進のため、組織内部から変えていく活動を実践するキーパーソンを養成するために企画された5カ月間の連続講座です。

社内の現状分析や課題解決の手法を学び、WLB関連制度や風土作り、タイムマネジメント(時間管理)やリーダーシップ、現状打破をするための企画提案を実施する際に効果的なプレゼンテーション技術などを学びます。



### 第3回講座

#### 第1部 「WLBを実現する労働時間の見直し方、考え方」

講師：糟谷芳孝氏(当センター外部相談員)

変形労働時間制、フレックスタイム制、裁量労働制、時間単位の有休取得制度、短時間勤務、在宅勤務、短時間正社員など働き方の選択肢を増やすという観点から各制度の導入ポイントについて説明されました。後半の、自社の労働時間等の設定改善への取り組み状況をテーマにグループで話し合う実習では、皆さん、熱心に話し合っていました。アンケートでは、「フレックス勤務導入計画があり、他社状況を聞いて、進め方も明確に教えていただいたので参考になった」「自社にはない仕組みがあることが分かり、検討する余地があることに気づいた」など肯定的なご意見が多く見られました。一方、「制度があっても利用できない」とのご意見もあり、今回のプログラムから得られた気づきを自社の今後の取り組みに、キーパーソンとして、どう活かすかということが今後の課題になりそうです。



#### 第2部 「タイムマネジメントとリーダーシップ」

講師：井原準哉氏(当センター外部相談員)

前半は、いかに質の高い時間をつくるかがタイムマネジメントの原則であること、無駄な時間を生まないよう仕事に優先順位付けをし、仕事の目的と達成したい目標を明確にし、PDCA(Plan Do Check Action)サイクルを回し続けることが大切と話されました。後半は、「リーダーシップ」は生まれ持ったスキルと思われがちだが、意識的に磨くことにより伸ばせる能力で、誰でも発揮できるものだとして説明されました。「できない」ではなく、「どうすればできるようになるか」と考えて前向きに行動すること、目的を達成するため、優れた能力を持つ周りの人々をいかにうまく使うか、上司が部下に助けを求めることもリーダーシップの一つと話されました。アンケートでは、「時間をつくるという発想は当たり前のようで全然実践できていなかった。大変参考になった」「自分と未来は変えられるという心構えに感銘を受けた」などのご意見がありました。

